

中学校 国語科 部会

部会長名 大任中学校 校長 小田 玲子
川崎中学校 校長 村上きぬよ
実践者名 赤池中学校 教諭 浦田 賢子

1 研究主題

第1学年の古典学習におけるものの見方や考え方を広げる国語科学習指導の研究
～プレゼンテーションを活用し古人のものの見方や考え方を比較する交流活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 国語科の今日的な課題から

中学校学習指導要領解説 - 国語編 - (平成20年3月告示)「読むこと」の第1学年の目標は、「目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。」である。そのためには、「文章に表れている書き手のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くする」ことが必要であると述べている。ものの見方や考え方については、書き手の「ものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていたりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を更に広げていく」ことの必要性を併せて述べている。この共感したり、疑問をもったり、批判したりして読むことは、PISA型読解力を目指す「読解力向上に関する指導資料」(平成17年12月文部科学省)の指導の改善の方向、の内容「自分の知識や経験と関連づけて建設的に批判したりするような読み(クリティカルリーディング)を充実することと関連するものである。このことから、「読むこと」においては文章の内容を正確に理解するだけでなく、共感したり疑問をもったり、批判したりしながら、自分のものの見方や考え方を広げられるようにすることが大切であると考えられる。

また、古典の指導については、「我が国の言語文化を教授し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する」ことが必要である。その際、中学校においては、「言語の歴史や、作品の時代的・文化的背景とも関連付けながら、古典に一層親しむ態度を育成すること」が求められている。特に、「古典嫌い」の生徒が多いという現実を十分に踏まえ、いたずらに文法指導や詳細な読解に陥ることなく、古典への継続を意識した指導を展開するとともに、各領域の指導と関連させて行う必要があると考える。

(2) これまでの指導の反省から

これまでの古典学習というと、音読を繰り返すことで文語調に慣れ親しませることから始まり、文語のきまりを知ることで、古文を音読することができたり、書かれている文章の内容を正確に理解するための手がかりとしての学力を身に付ける訓詁注釈型の扱いで内容を理解させていく学習に重点が置かれていた。しかし「生涯にわたって古典に親しむ態度」を育てることができているか、また「身の回りの生活や社会生活に生きて働くよう、国語科の学習で身に付けた言語応力が目的や相手に応じて、使える」ようになっているかということ、古典嫌が多い現状から考えてみてもそうとはいえない。また、

書き手のものの見方や考え方に迫ったり、読み手が自分のものの見方や考え方と比較することを通して、新たな発見をしたり、様々な視点から考えられるようになったりすることの指導が不十分であった。

そこで、本研究では第1学年の古典教材「矛盾 - 故事成語」の学習において、故事成語に関する文や文章を読みながら、文章の構成や展開、要点や要旨を吟味するとともに、古人の生活、服装の違いなどの有職故実の違いに触れさせながら、現代のわたしたちと古人のものの見方や考え方を比較するという学習活動を設定した。また、紙芝居を用いて分かりやすくプレゼンテーションを行うことにより、これまでに習得した知識・技能が活用され、さらに習得が促進されることを、実践を通して検証していきたいと考え、この主題を設定した。

3 主題設定の意味

(1) ものの見方や考え方を広げるとは

第1学年では古典の世界に触れることが目標である。そこで、故事成語についての文章を読むとともに、古人の生活や服装の違いなどがわかるDVDや資料、本に触れさせ、比較させることで、新しい発見をしたり、多くの情報から必要な情報を取捨選択したりして、新たな自分の立場をもつことである。

(2) プレゼンテーションを活用し古人のものの見方や考え方を比較する交流活動とは

プレゼンテーションにおける学習形態の工夫をすることにより、交流活動の活性化を図る。具体的には、4月に実施した実力テストの結果のうち、「読むこと」の領域からの偏りをなくし、人間関係にも考慮した6つのグループの編成である。このグループで一つの課題に取り組みさせることで、意見を交流しやすい雰囲気を作り、より読みの力を深めることができるとともに、他の意見に対して自分の考えをもつ機会となり、古典学習におけるものの見方や考え方を広げることができると考える。

4 研究の目標

古典学習におけるプレゼンテーションを活用し古人のものの見方や考え方を比較する交流活動を取り入れることを通して、第1学年の古典学習におけるものの見方や考え方を広げる国語科学習指導の在り方について究明する。

5 研究仮説

国語科学習指導において、古人の生活や服装の違いなどの有職故実の違いに触れさせ、比較させることができるDVDや様々な資料、本を読むこと、また「読むこと」の領域と人間関係に考慮した学習形態の工夫を図れば、他の意見に対して自分の考えをもつ機会となり、第1学年の古典学習におけるものの見方や考え方を広げることにつながっていくだろう。

6 研究の計画(授業の計画)

(1) 単元名 「故事成語」を学習し、自分なりの用例を作ろう

(2) 単元の目標

- 故事成語を調べ、その用例を積極的に考えようとしている。
- 様々な文や文章を読み、古人のものの見方や考え方をとらえるとともに、自分のも

のの見方や考え方を広くする。

- 文語のきまりを知り、音読により古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れる。

(3) 単元指導計画 (総時数 6 時間)

時 数	学習活動	教師の支援・援助	評価規準表				
			関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な文化と国語の特質に関する事項
1	<p>故事成語の由来と意味の関連を知る。</p> <p>「矛盾」の書き下し文を繰り返し音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDや資料を見せることで親しみを持たせる。 ・学習の流れを確認させる。 ・「矛盾」の書き下し文を音読させ、独特の言い回しに慣れさせる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・書き下し文を音読して、古典特有のリズムを味わっている。
1	<p>「矛盾」の書き下し文と口語訳を読んで故事の内容を理解し、「矛盾」の用例を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用例については、普段の生活の場面を挙げて想像させたり、辞書を使って調べさせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用例を複数挙げて積極的に考えようとしている。 				
3	<p>教科書に紹介されている故事成語について、その言葉の由来や意味などを調べ、紙芝居にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どこで場面を分けるか、話の内容をどのように紹介するかなどについて、グループで話し合わせる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・調べた故事成語について、より深く調べてその意味ともともなった故事の内容を正しく理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな故事成語を知り、古典の世界に触れようとしている。

1	<p>故事のプレゼンテーションを通して、それぞれの故事成語の由来を知り、意味を理解する。 (本時)</p>	<p>・理解した内容を踏まえ、自分なりに考えた用例を一つ挙げさせる。</p>				<p>・プレゼンテーションを聞き、自分なりの用例を書くことで、自分のものの見方や考え方を広くしている。</p>
---	---	--	--	--	--	---

7 指導の実際

(1) 本時

研究主題達成の具体的方策【学力向上プランとの関連】

ア 各項目の具体策

項目	これまでの指導方法	改善された指導方法
授業形態	○ 一斉授業を行い、必要に応じて班や個人で学習。	○ 学習班の編制によるバズ学習。
教具・教材	○ 教科書、ノート、ワーク、ファイルを基本。 ○ 必要に応じて学習プリントを活用。	○ 古典学習をより親しみやすくするための視聴覚教材。 ○ 考えをまとめるための学習プリントを活用。
授業の展開	○ 一単位時間ごとに学習のめあてを提示し、ワーク、補助教材や学習プリントを適宜使用。 ○ 個人や班での表現活動。	○ グループで調べた故事成語を、故事とその意味がわかるように紙芝居にまとめ、発表させることで、内容理解を深めさせる活動。
評価	○ 観察様相、ノート、学習プリント、小テスト。	○ 観察様相、ノート、学習プリント、評価表。

イ 人権・生徒指導の視点に立った指導の具体的方策

視点	具体的方策
自己存在感をもたせる支援の工夫	○ 協力して活動できる場を工夫し、お互いの考えや方法のよさに気付かせる。
共感的人間関係を育成する支援の工夫	○ 他者の発言や作品のよさに気付き、学ぼうとする態度を育てる。
自己選択・決定の場の工夫	○ グループごとの発表を聞き、自分なりの故事成語の用例を考える。

主眼

グループで調べた6つの故事成語を、由来や意味、用例を4枚の紙芝居にまとめたプレゼンテーションを参考にし、自分なりに考えた用例を学習プリントに記述す

ることができる。

本時の指導観

前時までに生徒は、グループごとに故事成語の由来や意味、用例を紙芝居にまとめている。

まず導入では、前時までの活動においてまとめた故事成語について紙芝居でプレゼンテーションし合うことを確認した上で、本時のまとめを確認させる。

次に、分かりやすく伝えることができるか確認させた後、発表会を行う。

最後に、それぞれのプレゼンテーションを参考にして自分なりの用例を考えさせることで、自分のものの見方を広げるようにさせ、今後の古典学習や発表会活動への意欲付けとさせたい。

準備

教科書 学習プリント 発表用ペン・用紙 ファイル

展開

	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価規準・評価方法	配時
導 入 / 展	1 前時までに学習したことを確認する。	全	<p>本時で活用する知識・技能等</p> <p>故事成語の由来を知り、適切な用例を考えることで、文脈の中における語句の意味を的確に理解する。</p> <p>表現の仕方や特徴、現代仮名遣いとの違いに注意して読む。</p>		5
	2 本時の学習課題を確認する。	全		<p>本時のめあてを知らせ、発表の仕方と聞く態度について説明する。</p> <p>発表を聞いた後、評価表を記入することを説明する。</p>	
	<p>めあて 「故事成語」を学習し、自分なりの用例を作ろう。</p>				
開	3 作成した紙芝居が分かりやすく表現されているかを確認させる。 【共感的人間関係】 【自己存在感】	班	<p>活用課題</p> <p>故事の発表を通して、それぞれの故事成語の由来を知り、意味を理解するとともに、用例についての自分なりの考えを持つ。</p>		10
	4 班ごとに、故事の内容を四つの場面に分けた紙芝居を発表する。	全	<p>班で作成した紙芝居と用例を提示しながら発表させる。</p>	<p>例文を書きとめる。 〔学習プリント〕</p>	15
	5 それぞれの発表をもとに、自分なりの用例を考える。 【自己選択・決定】	個	<p>最後に自分が考えた用例を書かせる。</p>	<p>他の班の発表を参考にして、自分なりの用例を書くことができる。 〔学習プリント〕</p>	10

/ 終末	6 本時の学習の自己評価をする。	個		3
	発表を終えて、故事成語のことがよく分かった。自分の知らない故事成語を、うまくまとめていた。この授業で学んだ故事成語を生活の中で生かしていきたい。			
	7 本時のまとめをする。	全		2

(2) 研究のまとめ

古典学習におけるものの見方や考え方を広げることについて

国語科学習指導において、古人の生活や服装の違いなどの有職故実の違いに触れさせ、比較させることができるDVDや様々な資料、本を読むことで親しみを持たせた。ともすれば「難しい言葉ばかりでよくわからない。」「古典はいちばん苦手。」という生徒が多いなか、よく見えるように前の方へ移動してDVDを見たり、千年以上前の中国の話からできた言葉を、現代の私たちが使っていることについて「もっと調べてみたい。」「あの言葉って故事成語やったんやね。」という新たな発見を口にしていく生徒もいた。また、「中国の昔の話には架空の生き物の竜がよくでてくるね。皇帝も竜にたとえられたりするし、関係が深いんやね。」「紙芝居の絵の人の服がよく描けてるね（最初に描いた時は洋服を描いていて資料を読んだ後に書き直した）」という古人と自分との考えを比較したり、昔と現代を比較した感想も聞かれた。授業後も「他のことも調べてみたい。」という生徒の声が多く聞かれ、古典の世界に触れ、古典を尊重していく態度を育てる手立てであったと考える。

また、他の班のプレゼンテーションを参考にして考えさせた用例としては、「地球が終わるといふ君の考えは杞憂だ。」「君の今言った言葉は蛇足だ。」など、日頃の学級での会話のやりとりを参考にしたものも多く、学習した内容と日頃の生活を関連づけて新たな自分の立場をもつことができたと考える。

プレゼンテーションを活用し比較する交流活動について

古典学習において多様な考えを引き出すために、4月に実施した実力テストの結果のうち、「読むこと」の領域から偏りのないグループを編成した（男女は交互に座る）。

授業後の振り返りで「班で協力して準備を行い、発表にしっかり取り組みましたか」という項目では「取り組めた」と回答した生徒は77%、また「準備や発表を通して、表現することの楽しさを味わうことができましたか」という項目で「できた」と回答した生徒は80%だった。感想では「自分の思っていたこととは少し違っていたので、使う時に気をつけようと思いました。」「故事成語の意味と由来をたくさん知ることができました。」というものが多く、これは自分を表現できる環境（グループ編成）

学年	1	2	3	4	5	6	計
人数	15	15	15	15	15	15	90
男子	8	8	8	8	8	8	48
女子	7	7	7	7	7	7	42

学年	1	2	3	4	5	6	計
人数	15	15	15	15	15	15	90
男子	8	8	8	8	8	8	48
女子	7	7	7	7	7	7	42

【資料】振り返り用紙

や共通の問題を通して一人一人が考えをもち、話し合うことで、ものの見方や考え方が広がったからではないかと考える。

8 研究の成果と課題

(1) 成果

古人の生活や服装の違いなどの有職故実の違いに触れさせ、比較させることができるDVDや様々な資料、本を読むことで親しみを持たせることで生徒の言語活動における意欲を引き出すことができたとともに、読みを深めることができた。

「読むこと」の領域においての班づくりは、古典学習だけではなく説明的文章など単元を広げて活用することも有効である。

話し合いには 場への信頼がある 共通の問題がある 一人一人に考えがある 考えに異質性があるという成立条件が必要である。

(2) 課題

プレゼンテーションを行う際の提示モデルを工夫する必要がある。

本研究ではプレゼンテーションという言語活動を通してものの見方や考え方を広げる学習活動を行ったが、1単位時間の中では内容が多すぎた感がある。1単位時間の中で押さえるべきねらいを絞り込む必要がある。

それぞれの発表をもとに、自分なりの用例を書かせる活動で、発表した班が挙げた用例を書いている生徒や、意味を書いている生徒がいたので、教師の指示を的確に伝える必要がある。

主な参考文献

- ・ 中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年） 文部科学省
- ・ 評価規準・評価方法等の研究開発 国立教育政策研究所
- ・ 「読解力」を高める国語科授業の改革 - PISA型読解力を中心に - 鶴田清司 著 明治図書
- ・ 新中学校国語科重点指導事項の実践開発 河野康介 編著 明治図書
- ・ 言葉を鍛える授業のアイデア 中学編 山田高広 著 明治図書